

第5学年「音楽」学習指導案

授業者 下田 愛佳里

2月23日（金）4階アセンブリ 10:00～10:40 話し合い 10:55～11:45

1 題材名 みんなでつくる私の音楽

2 題材について

4年生からスタートしたアセンブリでの活動も2年目になった子どもたちは、なにか新しいものを生み出そうとしている姿がよく見られる。4年生の時には、既習曲を楽譜通り演奏することに専念していたが、5年生になり、曲と曲を組み合わせたたり、自ら曲を作ってみたりなど創作意欲を燃やしている。そのなかで、より特徴的だと感じるものは、友だちとぶつかりながらも意見を交わし合ったり教えあったりする姿がみられることである。「こっちのほうがいいんじゃない?」「こうしたら覚えられるよ!」などと日々試行錯誤しながら、音楽と友だちと関わりながらうまれてくる音楽は、さらにそれを聴いた子どもも積極的に関わっていく。そうしてどんどんと変化していく音楽は、ひとりのものではなく、まさにみんなでつくりあげていく音楽のように感じる。そのような過程で演奏できるようになっていったり、時には後退したりしながらも、一步一步かみしめながら進んでいく、そのような過程を大切にしていきたい。

5年生の夏から、アルトリコーダーを導入している。最初は大きさや運指に難しさを感じていた子どもも、アルトリコーダーの曲を演奏すると、「アルトリコーダーの音のほうがいいな」とつぶやき、アルトリコーダーに目覚める子どももいる。授業では、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーを両方取り入れるようにし、苦手意識のある子どもも吹ける音だけでもチャレンジするように声がけており、全体と関わる経験を通して、音の響きや動きを共有できるように心がけている。3学期はソプラノリコーダーとアルトリコーダーの重奏を取り入れ、今までにはなかった音の響きの重なりを感じてほしい。

3 学習指導計画（3学期：13時間目／全19時間）

常時活動	
自分（たち）の課題に向き合う・ともに歌う／演奏する／聴きあう 《4年生から継続的に行っている》	
3学期提示した楽曲	※既習曲も適宜扱う
〈ソプラノリコーダー・アルトリコーダー〉 エーデルワイス (Richard Rodgers 作曲)	
〈アルトリコーダー〉 涙そうそう	
〈歌唱曲〉 この星に生まれて	

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

友だちと関わりながら自分の課題と向き合うこと。音の重なりを楽しむこと。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○個人やグループで自分の課題と向き合って活動を進める 教えあう 話しあう 試してみる	ゆずりあって楽器を使う 場所を見つける
○全体で合唱やリコーダー演奏をする 音の重なりを聴く 友だちの声、音を聴く	見守る 息の使い方
○聴きあう 変化や工夫に気づく もっとこうしたら? カッコいい	感じたことを主張できる場づくり 見あい、聴き合う

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

音楽の授業を通して育まれてくものとはなにか